

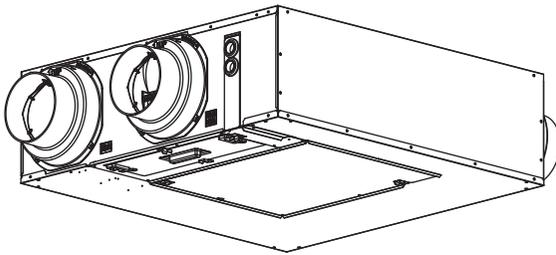
工事説明書

熱交換気ユニット

品番 FY-25KBD2
FY-18KBD2

入っているか、
確認してください！

お願い この製品専用の付属品あるいは指定のもの
(別売品) 以外は使用しないでください。



■熱交換気ユニット(付属品)

末尾の数字は数量をあらわします。

ねじ (野縁・壁取り付け用) $\phi 4 \times 30L$	4	
ねじ (吊り金具取り付け用) $\phi 4 \times 8L$	8	
防振ゴムA(吊り金具上用)	4	
防振ゴムB(吊り金具下用)	4	
吊り金具A	2	
吊り金具B	2	
取扱説明書	1	
(必ずお客様にお渡しください)		
工事説明書	1	
型紙	1	
リモコン	1	
リモコン用信号線 (10 m)	1	
リモコン用ねじ (M4×35L)	4	

工事説明書をよくお読みのうえ、正しく安全に施工してください。特に「安全上のご注意」は、施工前に必ずお読みください。

- ・工事説明書に記載されていない方法や、指定の部品を使用しない方法で施工されたことにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。
また、その施工が原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。

取扱説明書と本書(工事説明書)は必ずお客様にお渡しください。

もくじ

安全上のご注意	2
お願い	3
各部の名前と寸法	4
取り付け参考図	5~6
施工方法	7~21
試運転	22
連動機器との接続確認	23~裏表紙

安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。(次は図記号の例です)

 警告 「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。	 してはいけない内容です。
 注意 「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。	 実行しなければならない内容です。

 警告		
 分解禁止	 交流100Vで使用する 火災・感電の原因となります。 メタルラス、ワイヤラス、または金属板張りの木造造営物に金属製ダクトを貫通する場合、メタルラス、ワイヤラス、金属板と接触しないように取り付ける 漏電した場合、火災の原因となります。 熱交換気ユニットは高温や高湿度空気を吸い込む位置には取り付けない 機器内部に影響を与え、感電・火災の原因になることがあります。 電源ケーブルは確実に端子部へ接続する 不確実な接続をすると端子部が過熱し、火災のおそれがあります。	
 禁止		仕様変更・改造は絶対にしない 火災・感電・けがの原因になります。
 アース線接続		単線とより線の直接接続（ねじり接続など）、専用工具以外での圧着は絶対にしない 発火や火災の原因になります。 アース工事は電気設備技術基準に関する法令・規程に従って、必ず「電気工事士」によるD種（第三種）接地工事をおこなう 漏電したときに感電するおそれがあります。

 注意		
 水場使用禁止	 本体は指定の方法で確実に取り付ける 落下により、けがをするおそれがあります。 配線工事は、電気設備技術基準や内線規程に従って、必ず電気工事士が確実にこなう 誤った配線工事、ねじり配線や電線のかみこみなどがあると漏電、感電や火災のおそれがあります。 屋外吸込ダクト、排気ダクトの先端には、必ず雨水、雪が浸入しにくいパイプフードを取り付ける 雨水、雪の浸入により、感電・火災や家財などを濡らすおそれがあります。 外風の強い場所に設置する場合は防風型のフードを取り付ける 強風時での雨水浸入により、感電・火災や家財などを濡らすおそれがあります。	
 禁止		浴室など、湿気の多いところに取り付けけない 感電の原因になります。
		炎があたるおそれのある場所には取り付けない 感電や火災の原因になります。 本体は、十分強度のあるところにしっかり取り付け、強度不足の場合には補強する 落下により、けがをするおそれがあります。 部品は確実に取り付ける 落下により、けがをするおそれがあります。 取り付け作業時には必ず手袋をはめて作業する はめないとけがの原因になります。

お願い

■高温(40℃以上)になる場所には取り付けないでください。

製品の変形やモーターの寿命を縮めます。

■傾斜のある天井面には取り付けないでください。

モーター故障や異音発生などの原因になります。

■台所など、油煙の発生する場所には取り付けないでください。

吸込グリルなどの破損の原因になります。

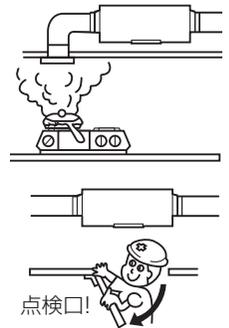
■点検口(□600)を設けてください。

保守点検ができません。

■次のような配管工事はしないでください。

風量低下の原因になります。

- (1) 極端な曲げ (2) 吐出口のすぐそばでの曲げ (3) 多数回の曲げ (4) 接続ダクト径を小さくする。



■パイプ取り付けをおこなう際、必ず本体から屋外側に向かって下り勾配をとってください。

下り勾配をとらないと、雨水が室内側に流れます。

■室内環境を維持するため、下記の場合は運転を停止してください。

(停止後は必ず運転を再開してください)

- 外気温が-10℃以下のとき
- 吹雪や台風などのような雪や風、雨の強いとき
- 霧の多いとき
- お手入れや点検のとき

■霧などの高湿度空気を吸い込むと、本体から結露水が滴下する場合があります。

使用環境や建物環境により発生状況が異なりますので、運転を停止するか、運転モードの切り換えをしてください。

(高湿度空気を吸い込む場合は、運転モードを弱で運転してください。
(また、濃霧や強風などで雨水が浸入するおそれのある場合は、運転を停止してください))

■電気・電子機器や濡れて困るものの上に本体を設置しないでください。

霧などの高湿度空気を吸い込むと、本体から結露水が滴下して、破損につながる場合があります。

■吸込グリルはフィルター付きのものを取り付けてください。

■屋外フードは環境に応じガラリ付タイプ、防鳥網付タイプの選定をおすすめします。

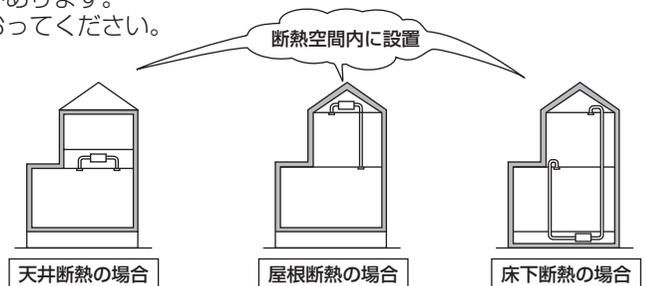
■火災警報器の近くに給気グリルを設置しないでください。

グリルと火災警報器の距離は1.5 m以上離してください。

設置が困難な場合は、所轄消防署にご相談ください。

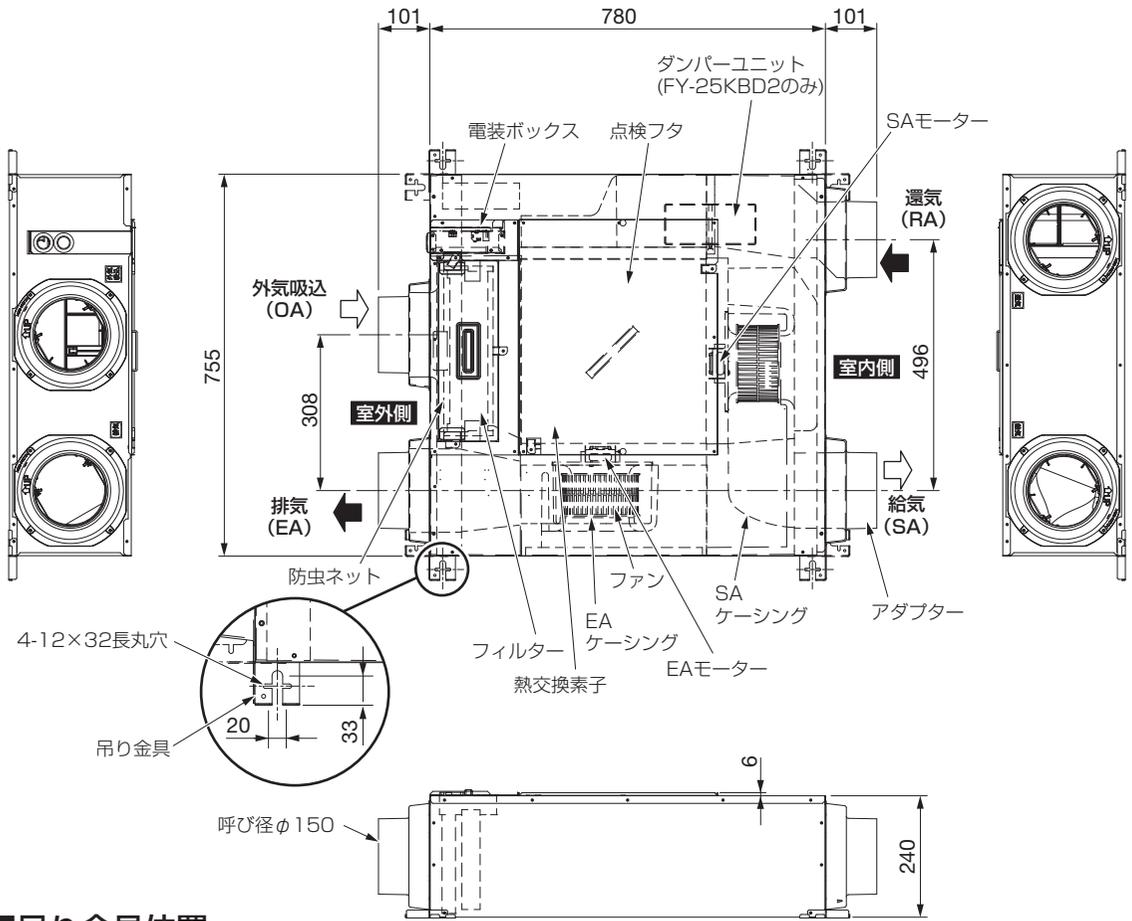
■本体はチューブも含めて、必ず断熱空間内に設置してください。

断熱空間外に設置した場合、結露するおそれがあります。
断熱空間外に設置する場合は、断熱材料でおおってください。



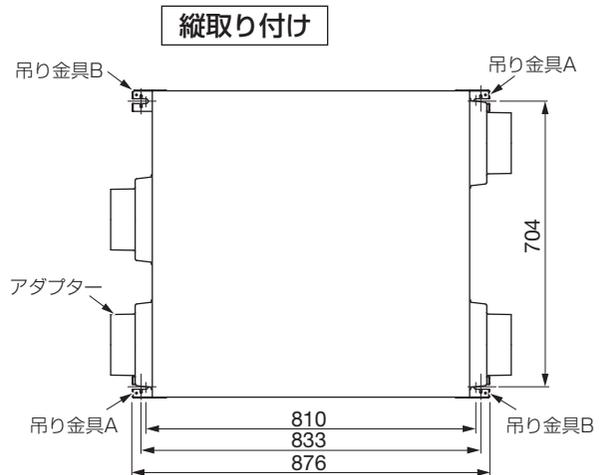
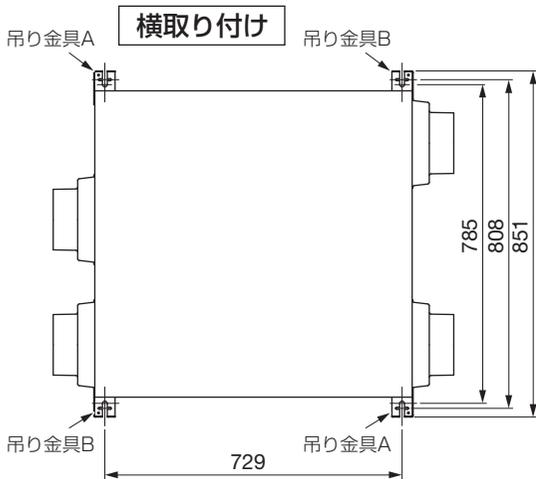
各部の名前と寸法

単位：mm



■吊り金具位置

吊り金具A  吊り金具B 

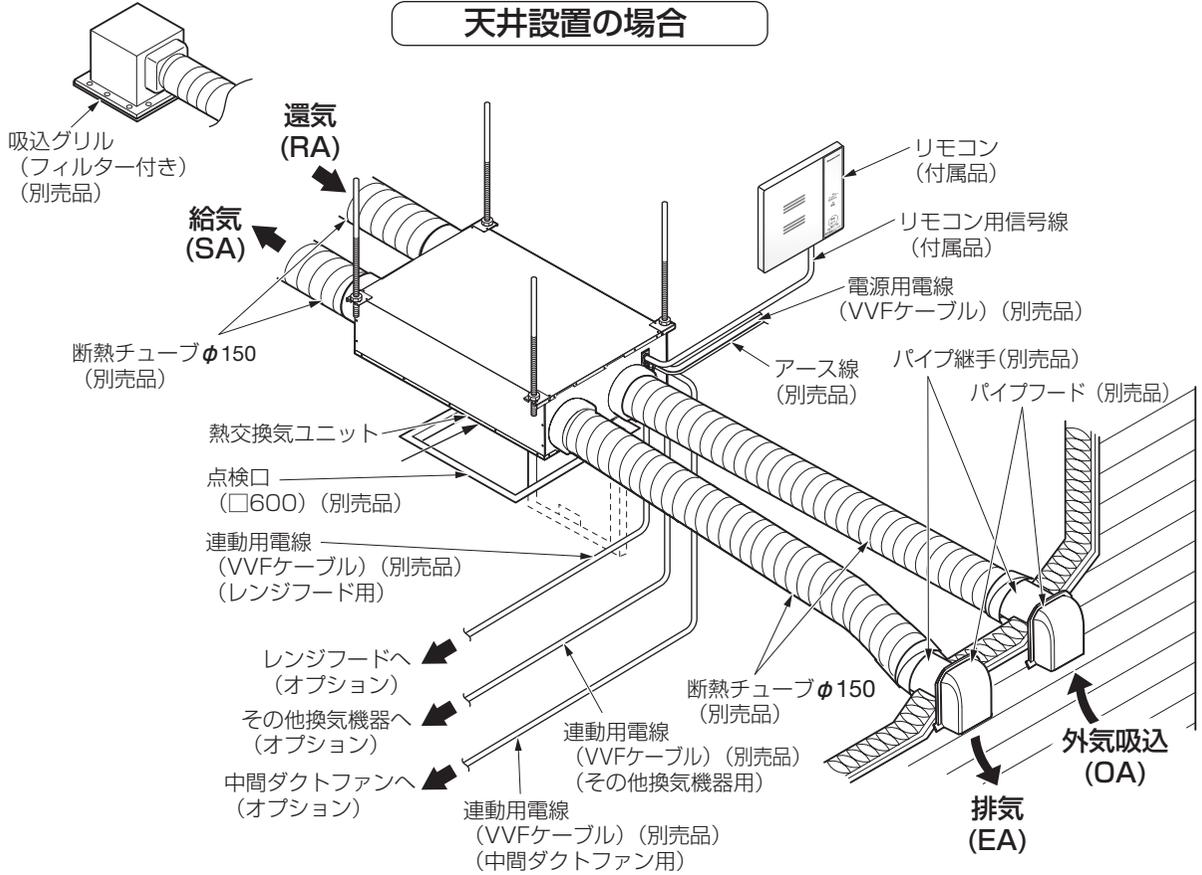


吊り金具は取り付け方向を変更することが可能です。

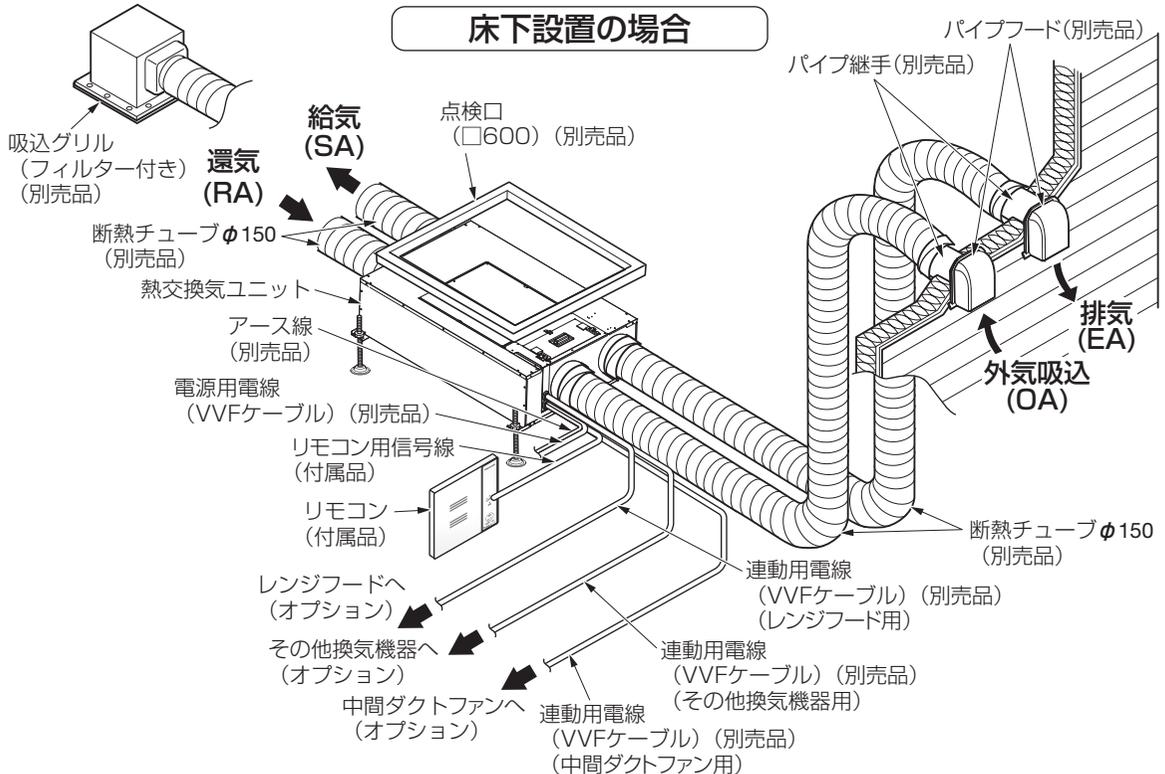
(設置スペースに応じて、吊り金具の向き、
(吊りボルトの位置を取り付けてください))

取り付け参考図

天井設置の場合

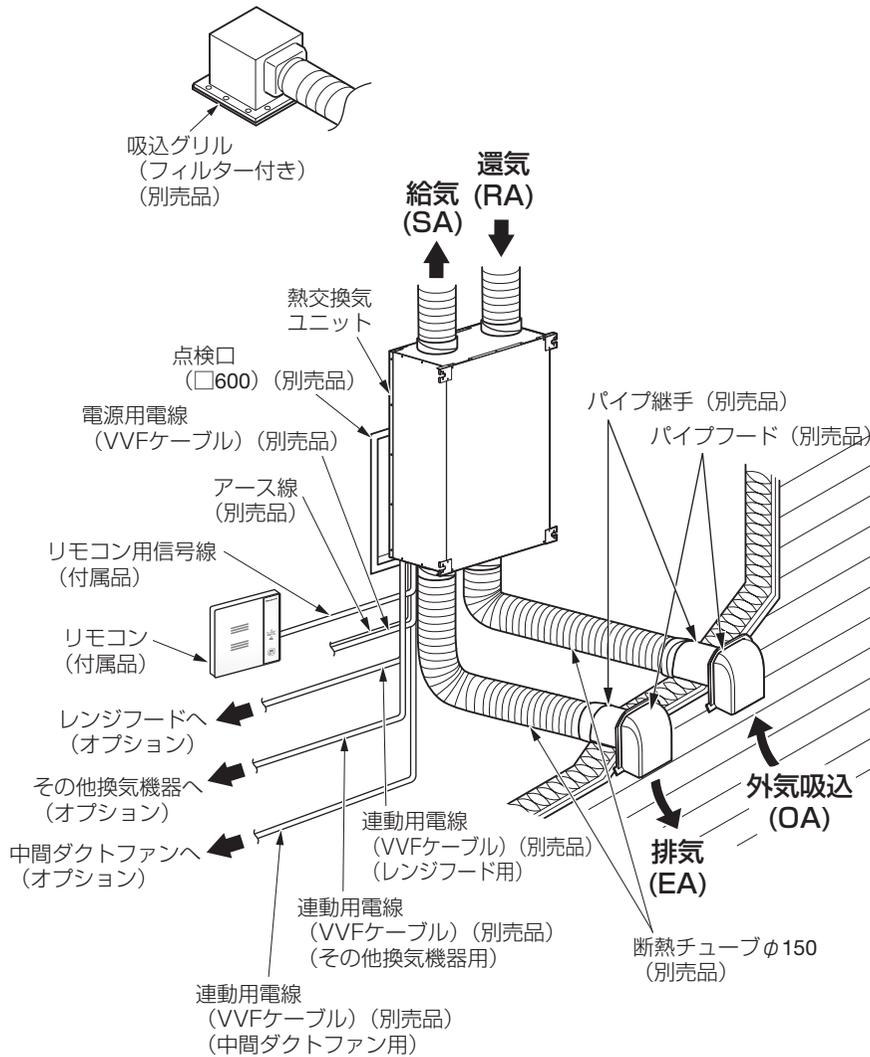


床下設置の場合



取り付け参考図 (続き)

壁設置の場合



施工方法

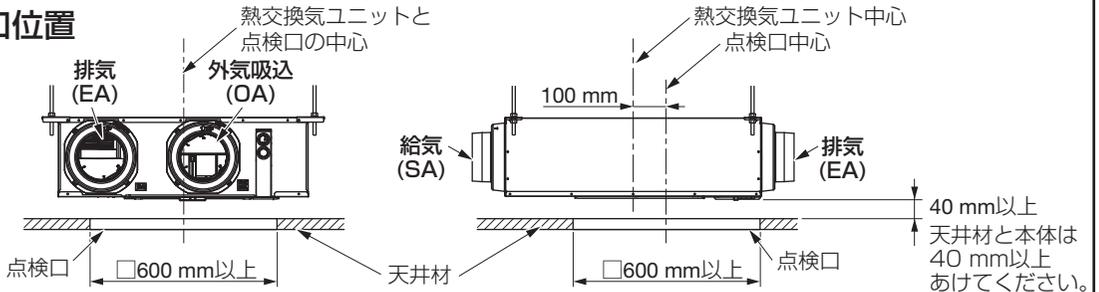
以下の手順に従って施工してください。

■熱交換気ユニットの取り付け

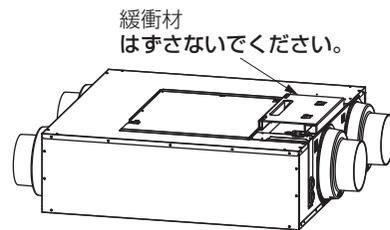
1. 天井設置の場合

反響、振動が起りやすい場所への設置はさけて、断熱空間に製品を設置してください。

点検口位置



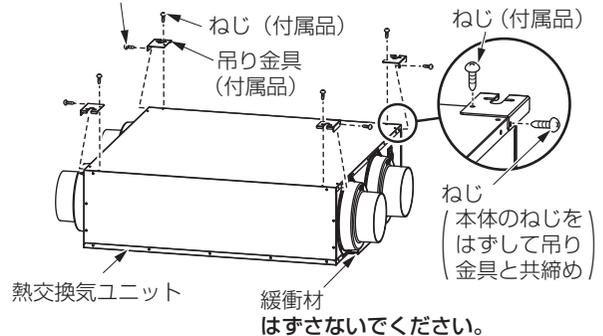
- 開梱時に熱交換気ユニットに取り付いている緩衝材は、はずさないでください。フィルターケースを保護しています。



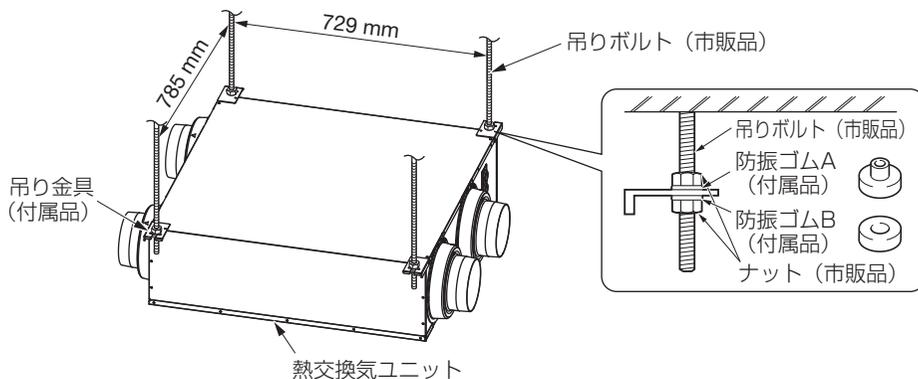
- ①付属の吊り金具（4個）を付属のねじ（吊り金具取り付け用 8個）で熱交換気ユニットに取り付ける。

- 吊り金具を「横取り付け」する場合は付属ねじを4個使用します。
- 設置スペースに応じて、吊り金具の向き、吊りボルトの位置を変更できます。（P.4 吊り金具位置参照）

ねじ（本体のねじをはずして吊り金具と共締め）

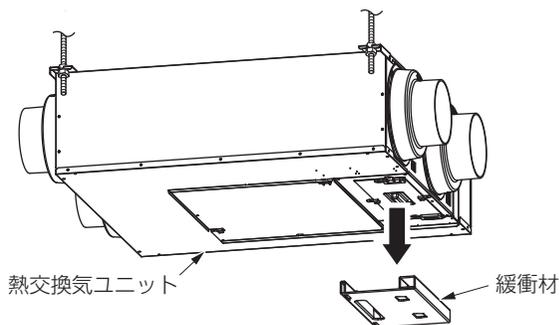


- ②点検口の配置と熱交換気ユニットの吊り金具位置に合わせ、吊りボルト（市販品：M8～M10）を設置し、熱交換気ユニットを吊りボルト（市販品）に取り付ける。

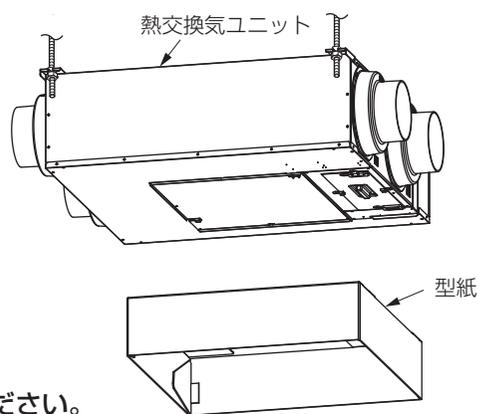
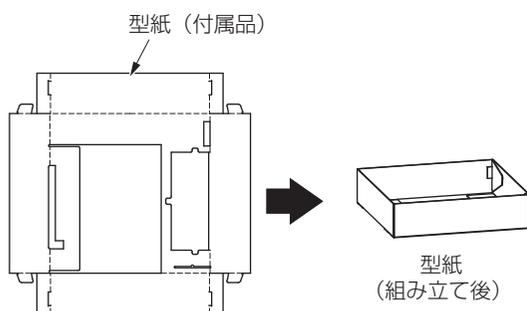


施工方法 (続き)

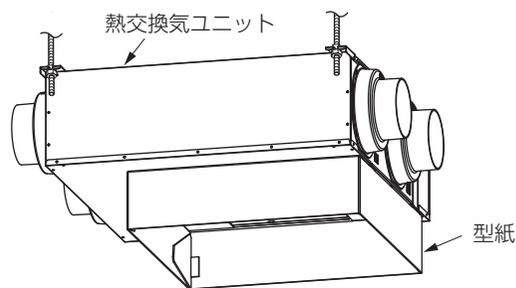
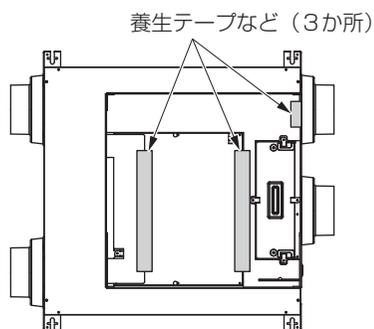
③緩衝材をとりはずす。



④型紙を組み立て、熱交換気ユニットに固定する。



●型紙は、内側から養生テープなどで固定してください。



⑤天井材設置後、点検口から下記が問題なくできることを確認し、型紙を取りはずす。

- フィルターの取り出し 点検フタの開閉 電装ボックスの取り出し

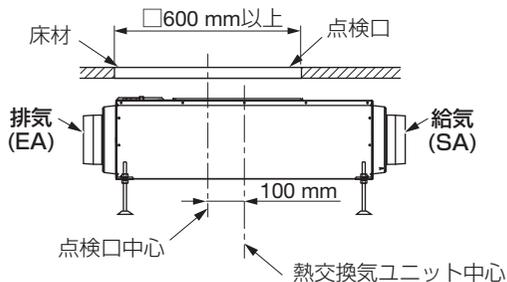
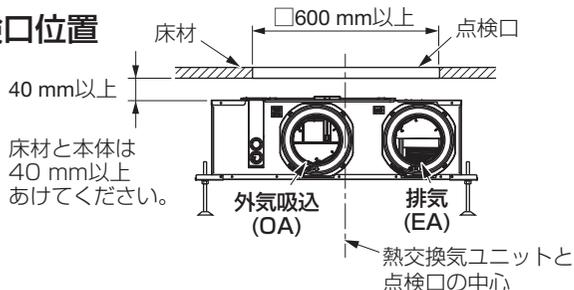
お願い

- 取り付けは、本体の質量に十分耐えるようにしっかりと取り付けてください。取り付けが不十分だと振動の原因になります。
- 吊りボルト (市販品) は垂直に取り付けてください。
- 特に振動防止に注意する必要がある場合は、防振用吊金具 (FY-O3BGH 別売品) を使用して本体を取り付けてください。
- 本体と天井材は40 mm以上あけてください。点検口が本体に干渉し、部品を取り出せないおそれがあります。

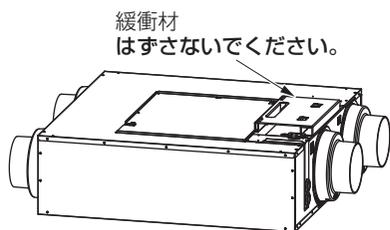
2. 床下設置の場合

反響、振動が起こりやすい場所への設置はさけて、断熱空間に製品を設置してください。

点検口位置

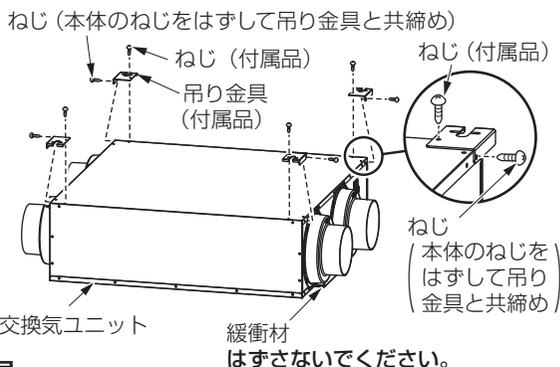


- 開梱時に熱交換気ユニットに取り付いている緩衝材は、はずさないでください。フィルターケースを保護しています。

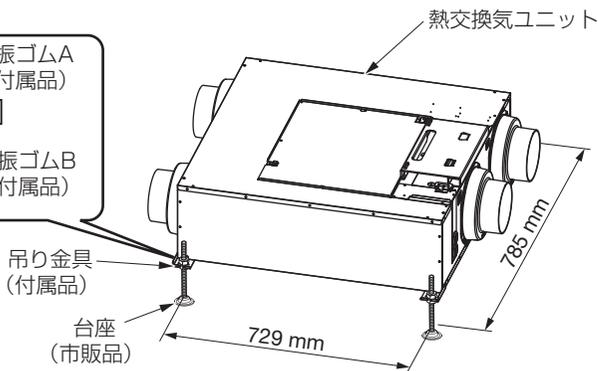
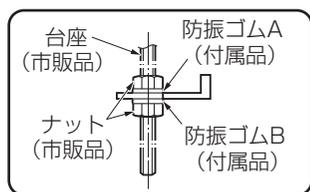


- ①付属の吊り金具（4個）を付属のねじ（吊り金具取り付け用 8個）で熱交換気ユニットに取り付ける。

- 吊り金具を「横取り付け」する場合は付属ねじを4個使用します。
- 設置スペースに応じて、吊り金具の向き、吊りボルトの位置を変更できます。（P.4 吊り金具位置参照）

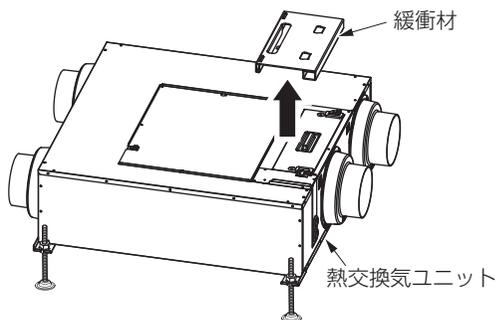


- ②点検口の配置と熱交換気ユニットの吊り金具位置に合わせ、台座（市販品：M8～M10）を取り付ける。

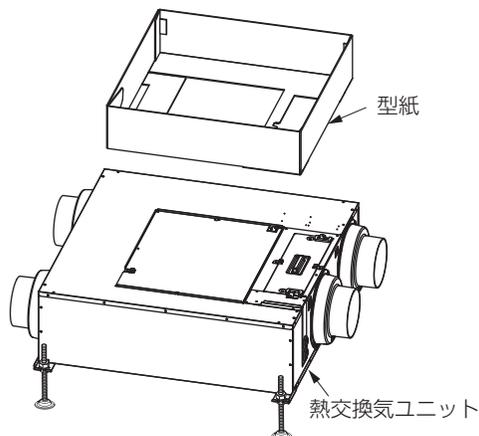
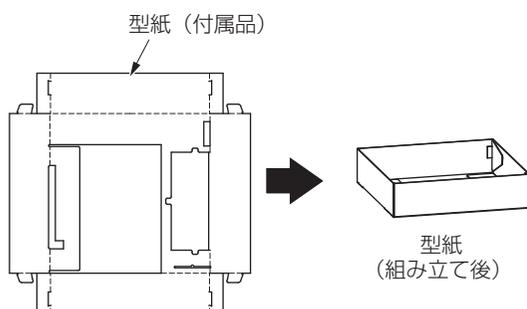


施工方法 (続き)

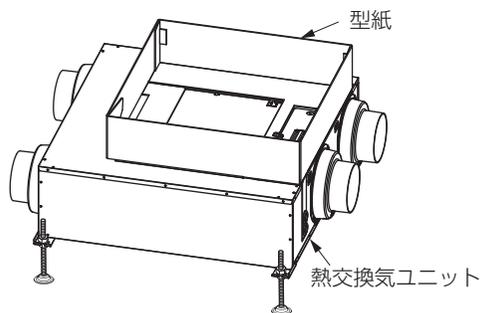
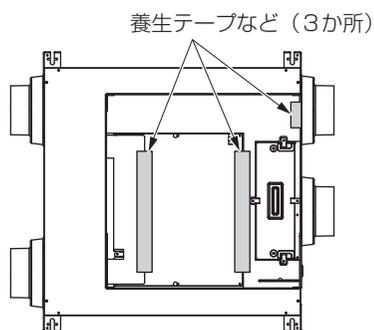
③緩衝材をとりはずす。



④型紙を組み立て、熱交換気ユニットに固定する。



●型紙は、内側から養生テープなどで固定してください。



⑤天井材設置後、点検口から下記が問題なくできることを確認し、型紙を取りはずす。

- フィルターの取り出し 点検フタの開閉 電装ボックスの取り出し

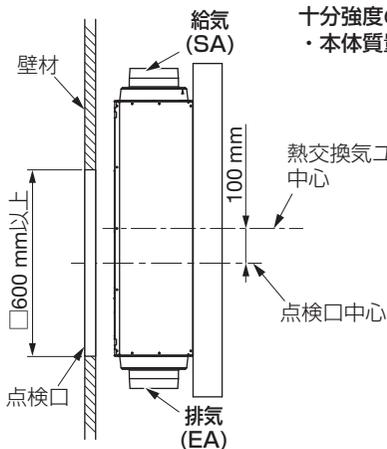
お願い

- 台座は基礎コンクリートに設置してください。
振動などの原因になります。
- 本体が水平になるように設置してください。

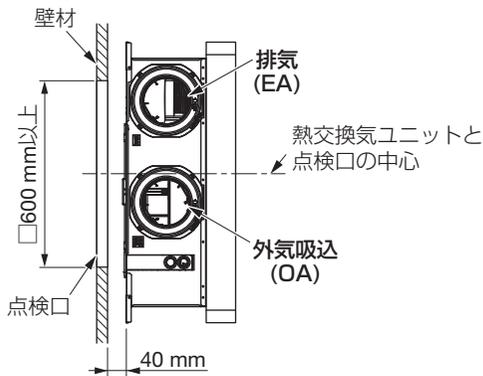
3. 壁設置の場合

反響、振動が起りやすい場所への設置はさけて、断熱空間に製品を設置してください。

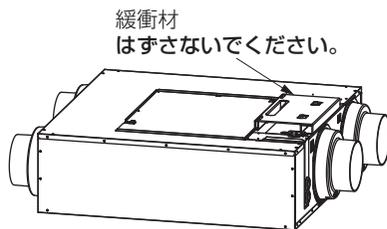
点検口位置



十分強度のある支持材（市販品）を作成してください。
・本体質量は約25.0 kgです。必要に応じて補強してください。

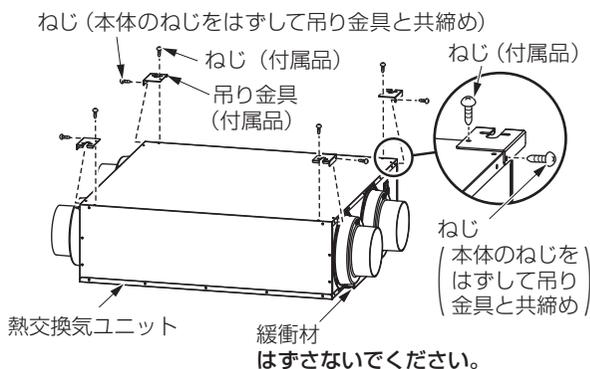


- 開梱時に熱交換気ユニットに取り付いている緩衝材は、はずさないでください。フィルターケースを保護しています。

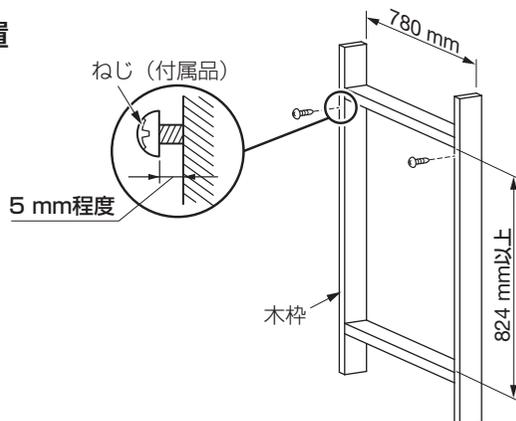


- ①付属の吊り金具（4個）を付属のねじ（吊り金具取り付け用4個）で熱交換気ユニットに取り付ける。

- 吊り金具の向きは、右図のように取り付けしてください。（向きは変更しないでください）

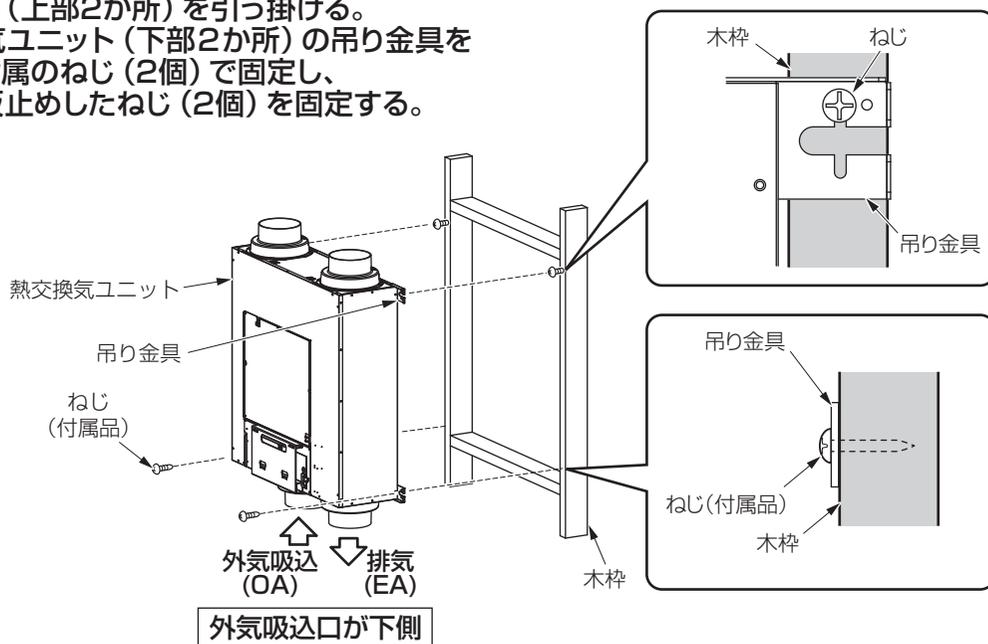


- ②点検口位置と熱交換気ユニットの吊り金具位置（上部2か所）に合わせて、木枠に付属のねじ（野縁・壁取り付け用2個）を仮止めする。



施工方法 (続き)

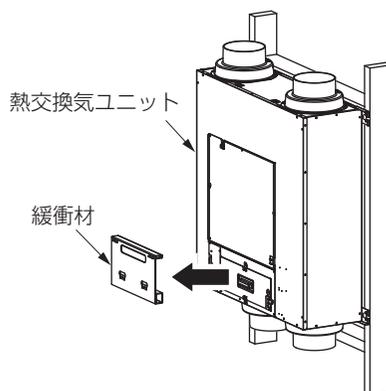
- ③ 仮止めしたねじ (2個) に熱交換気ユニットの吊り金具 (上部2か所) を引っ掛ける。
- ④ 熱交換気ユニット (下部2か所) の吊り金具を木枠に付属のねじ (2個) で固定し、上部の仮止めしたねじ (2個) を固定する。



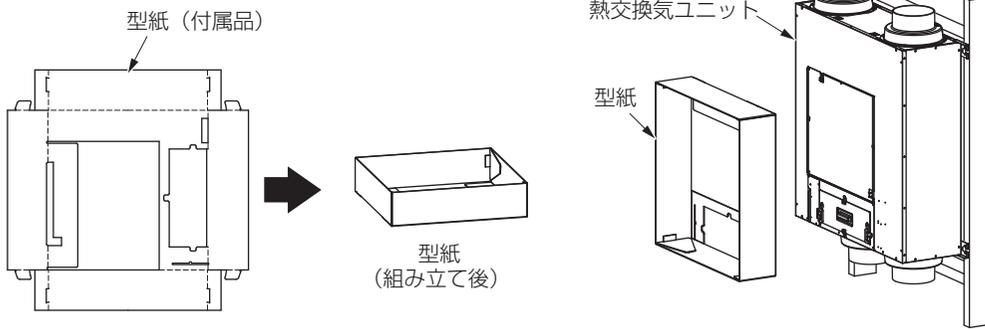
お願い

- 壁設置の場合は、熱交換気ユニット本体の外気吸込口側が下向きとなるように設置してください。
- 取り付けは、本体の質量に十分耐えるようにしっかりと取り付けてください。取り付けが不十分だと振動の原因になります。
- 取り付けは、寝室など騒音が気になるような場所から十分に離れた所に取り付けてください。
・ ねじ頭の低いねじが必要な場合は軽天井・木材用皿ねじ (市販品) をお使いください。
($\phi 4 \sim 4.3 \times 30 \text{ L}$)

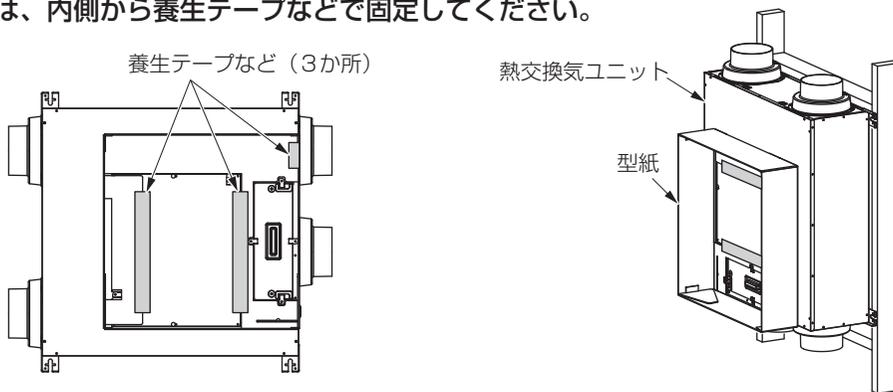
- ⑤ 緩衝材をとりはずす。



⑥型紙を組み立て、熱交換気ユニットに固定する。



●型紙は、内側から養生テープなどで固定してください。

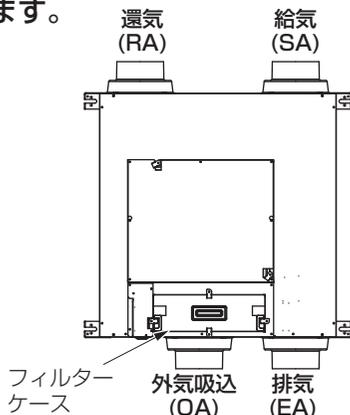


⑦天井材設置後、点検口から下記が問題なくできることを確認し、型紙を取りはずす。

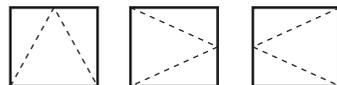
- フィルターの取り出し 点検フタの開閉 電装ボックスの取り出し

■点検口の開閉向き

点検口の設置は、下図のように開閉向きに注意してください。
フィルターケース側に点検口の吊り元を設置するとお手入れ、保守点検ができなくなります。



○ 設置可能な方向



✕ 設置禁止の方向



施工方法 (続き)

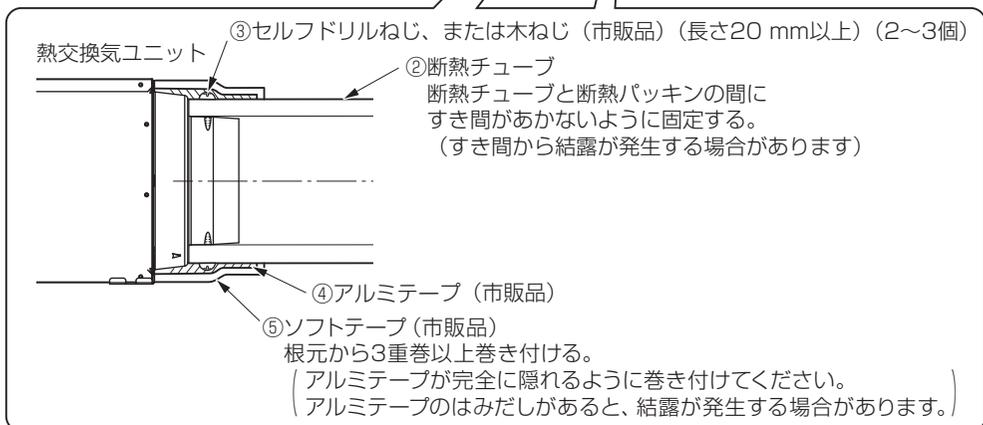
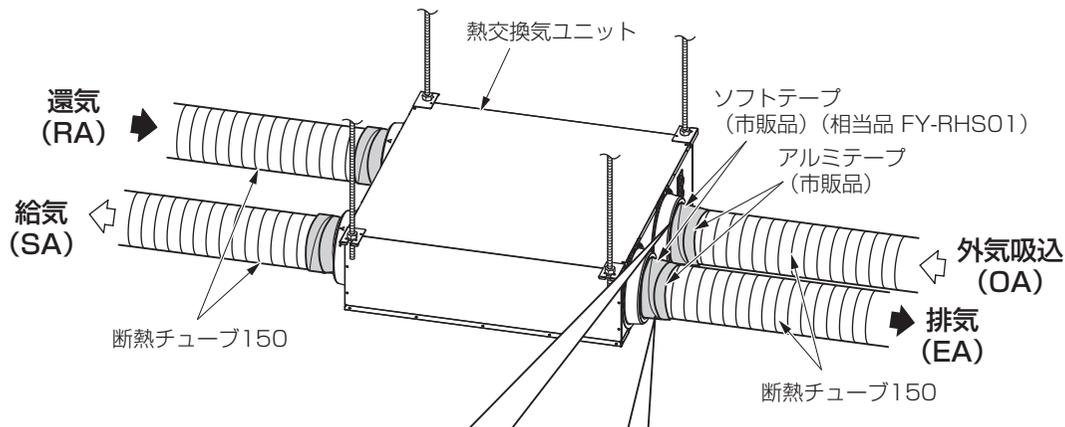
■チューブの取り付け

熱交換気ユニットと断熱チューブの取り付け

- ①断熱チューブを適切な長さに切断し、熱交換気ユニットのアダプターに差し込む。
- ②断熱チューブをセルフドリルねじ、または木ねじ（市販品）でアダプターに固定する。
※断熱チューブと断熱パッキンの間にすき間があかないように固定してください。
- ③セルフドリルねじ、または木ねじ（市販品）の上からアルミテープ（市販品）を巻く。
- ④ソフトテープ（市販品）を巻いて断熱する。
※アルミテープが完全に隠れるように巻き付けてください。

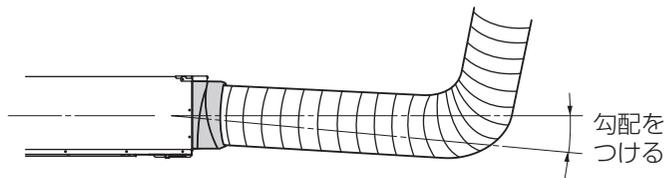
お願い

- 必ず断熱チューブを使用してください。
- ソフトテープは、すき間のないように巻き付けてください。
- セルフドリルねじ、または木ねじ（市販品）は20 mm以上の長さのものを使用してください。



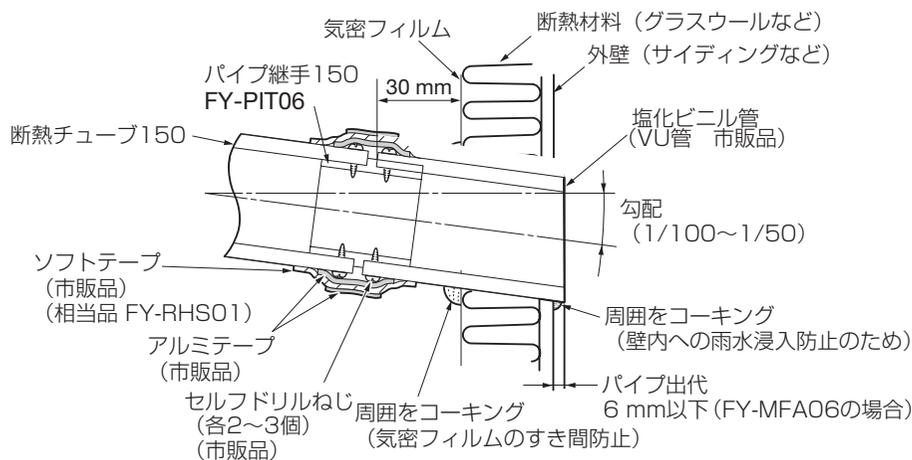
床下設置の場合

製品に対して必ず勾配をつけてダクト接続をしてください。



外壁面と断熱チューブの接続

- ①外壁面には塩化ビニル管：呼び径150VU管（市販品）を設置し、パイプ継手150で断熱チューブ150と接続する。
- ②セルフドリルねじ（市販品）で固定し、アルミテープ（市販品）とソフトテープ（市販品）を巻いて断熱する。ソフトテープがはがれるのを防ぐため、アルミテープをもう1回巻く。
- ③壁面とテープ部分にスプレー式断熱材などを施す。



お願い

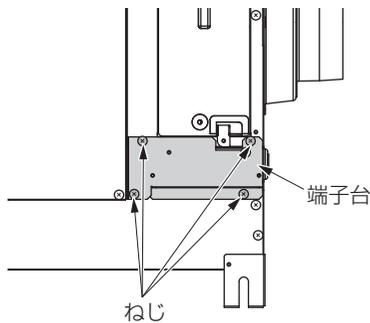
- 壁面とソフトテープ部分にスプレー式断熱材などを施してください。
- ソフトテープは、すき間のないように巻き付けてください。
- VP管には取り付けできません。塩化ビニル管使用時はVU管を使用してください。

施工方法 (続き)

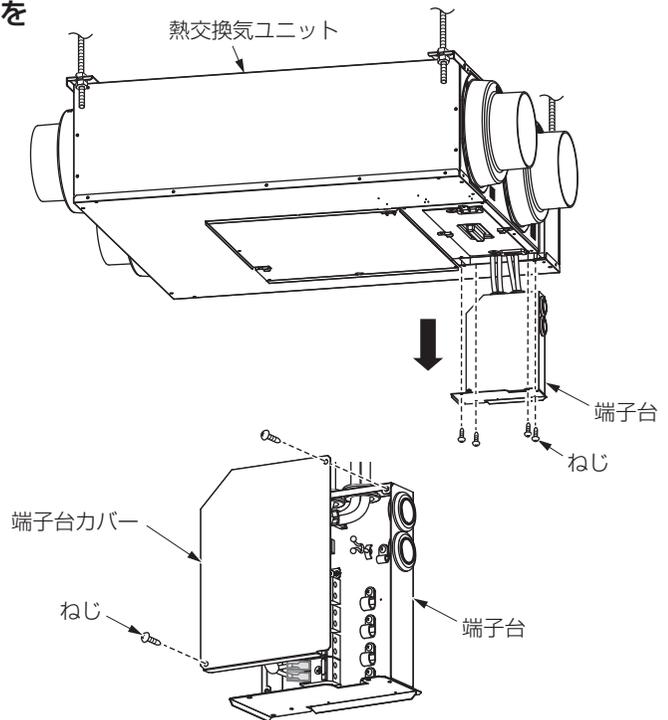
■電源の結線

※1 他機器と連動しない場合には使用しません。

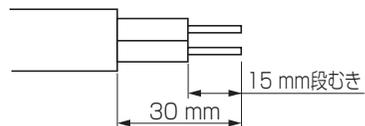
- ① 熱交換気ユニットからねじ (4個) をはずし、端子台を取り出す。



- ② 端子台のねじ (2個) をはずし、端子台カバーをはずす。

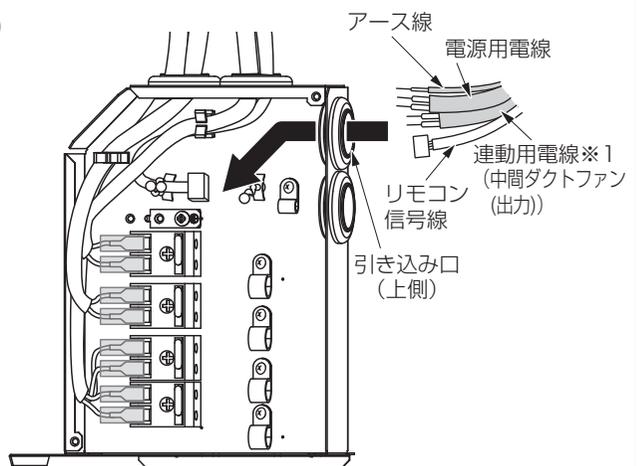
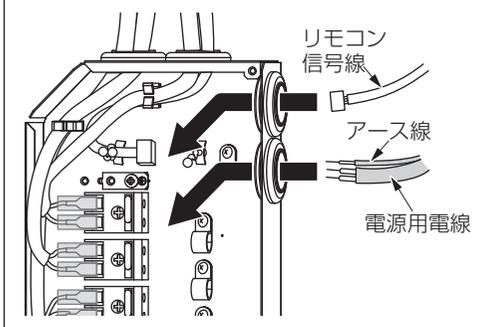


- ③ VVFケーブル (φ1.6またはφ2.0) を段むきする。



- ④ 電源用電線、アース線、連動用電線※1 (中間ダクトファン(出力)) (VVFケーブルφ1.6またはφ2.0 2心) とリモコン信号線を端子台の上側の引き込み口の穴に通し、引き出す。

※他機器と連動しない場合はリモコン信号線と電線の引き込み口を分けて引き出してください。



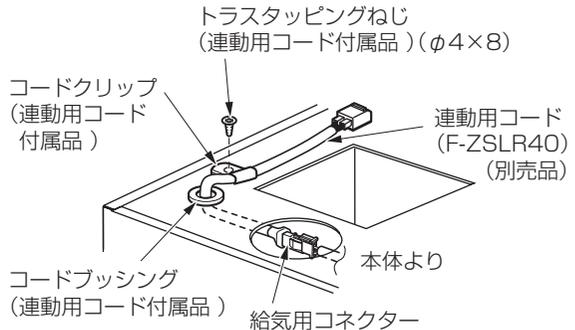
- ※1 他機器と連動しない場合には使用しません。
 ※2 コードクリップは必ず図の向きで固定してください。
 外部からの水滴が充電部へ浸入するおそれがあります。

⑤ レンジフードと連動運転する場合

レンジフードに連動ケーブル（市販品 VVFケーブルφ1.6またはφ2.0）を接続する。

右図のように連動用コード（F-ZSLR40（別売品））をレンジフード内にある交流100V給気用コネクタに接続する。

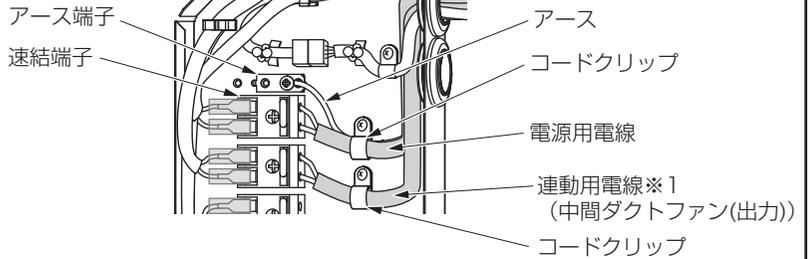
- ・パナソニック製以外のレンジフードとは連動運転できません。



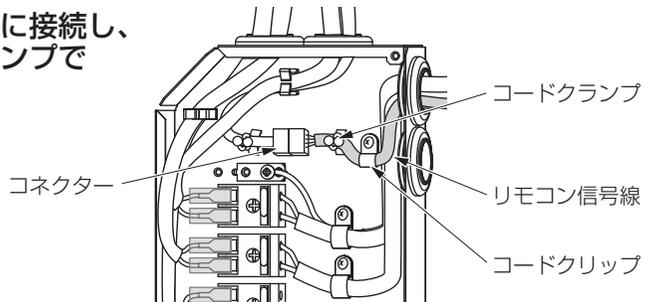
⑥ 電源用電線、連動用電線※1（中間ダクトファン(出力)）

の心線を結線図に従って速結端子に心線がとまるまで差し込み、※2 コードクリップで固定する。

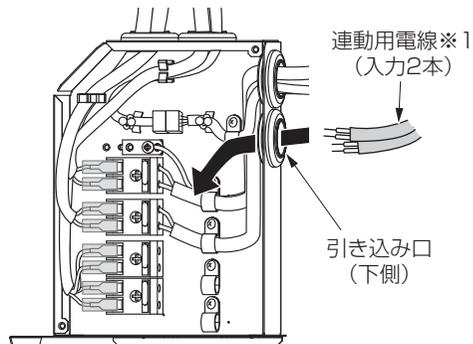
- アース線はアース端子に固定する。



⑦ リモコン信号線をコネクタに接続し、コードクリップとコードクランプで固定する。※2

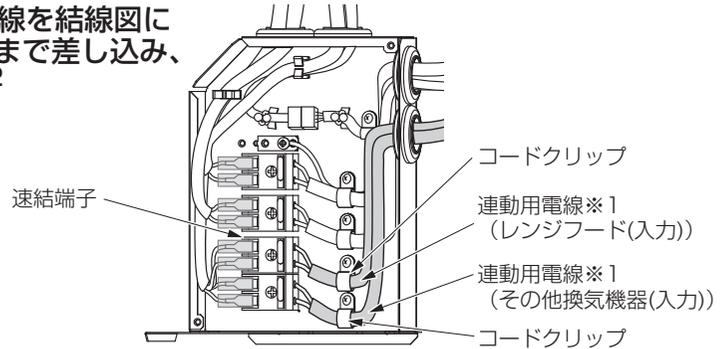


⑧ 連動用電線※1（入力2本）（VVFケーブルφ1.6またはφ2.0 2心）を端子台の下側の引き込み口の穴に通し、引き出す。

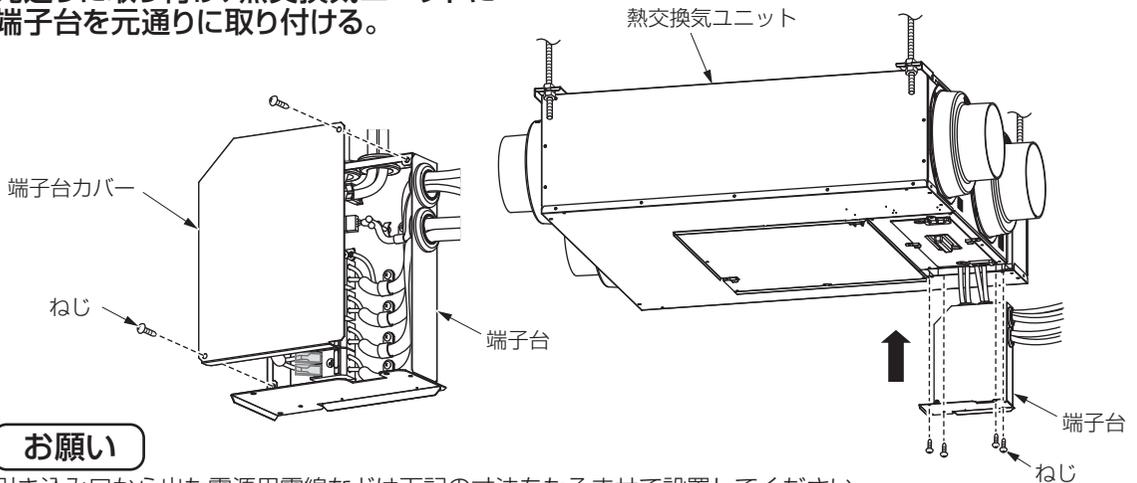


施工方法 (続き)

- ⑨ 連動用電線※¹ (入力2本) の心線を結線図に従って速結端子に心線がとまるまで差し込み、コードクリップで固定する。※²

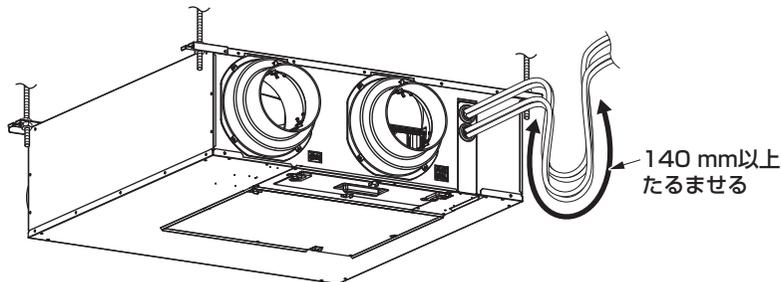


- ⑩ 端子台に端子台カバーをねじ (2個) で元通りに取り付け、熱交換気ユニットに端子台を元通りに取り付ける。

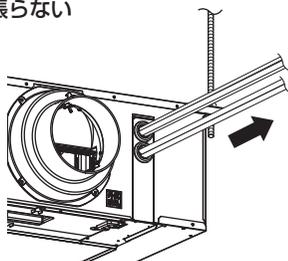


お願い

引き込み口から出た電源用電線などは下記の寸法をたるませて設置してください。保守点検時に端子台が引き出せなくなります。

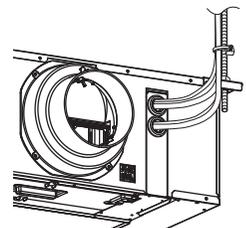


引っ張らない



たるみのない状態で固定しない

上記のように140 mm以上余長を持たせて吊りボルトなどに固定してください。

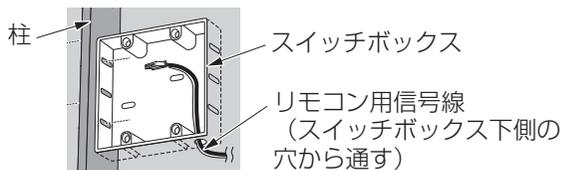


■リモコンの取り付け

①壁にスイッチボックス（市販品）を埋め込み、埋込ボックス内にリモコン用信号線を通す。

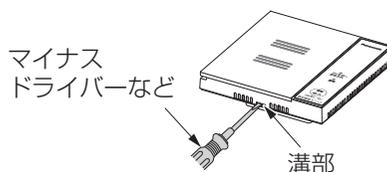
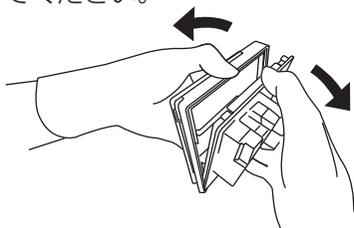
- 熱交換気ユニットとリモコンは同じ室内空間への設置をおすすめします。台所など油煙の発生する場所に取り付けしないでください。
- リモコンを外壁側に取り付ける際は、必ず断熱空間内に設置してください。
- 側面を市販の木ねじで2か所、固定する。

2個用埋込ボックス（JIS C8340対応品）をお使いください。



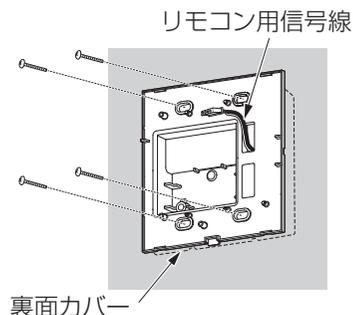
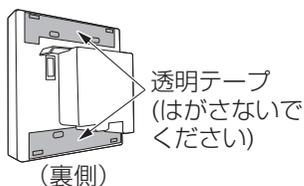
②リモコンの表面カバーを裏面カバーからはずす。

- 表面カバーの下部の溝部にマイナスドライバーなどを差し込み、はずしてください。上部のツメがかかっているため、表面カバーが開けにくい場合は、ツメを起点に表面カバーを引きはがすようにはずしてください。

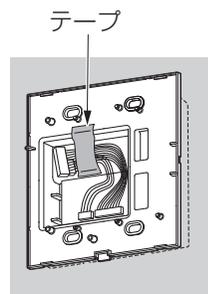


③リモコンの裏面カバーにリモコン用信号線を通し、付属のリモコン用ねじM4×35L（4個）でスイッチボックスに取り付ける。

- トルク目安：40 N・cm（4.1 kgf・cm）以下
- ケースの穴をふさいでいる透明テープをはがさないでください。



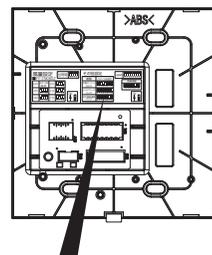
④裏面カバーのテープをはずす。



施工方法 (続き)

⑤ リモコンで風量設定と連動設定をおこなう。

- 1) ブレーカーが入っていたら、ブレーカーを落してください。
- 2) 下記に従って、給気／排気の風量を設定します。
(現地で設定する場合)
リモコンカバーを取りはずし、内部のディップスイッチで風量を設定してください。
風量は下表を参照してください。



風量設定		出荷時		その他設定		出荷時	
■FY-25KBD2		1 2 3 4		連動		1 2 3 4 5 6 7 8	
m ³ /h	DIP-SW 設定	200	1 2 3 4	中間ダクトファン (出力)	DIP-SW 設定	無線連動	
160	1 2 3 4	220	1 2 3 4	レンジフード (入力)	1 2 3 4 5 6 7 8	1 2 3 4 5 6 7 8	
180	1 2 3 4	250	1 2 3 4	その他換気機器 (入力)	1 2 3 4 5 6 7 8	ON	
						ON	

風量設定		出荷時		その他設定		出荷時	
■FY-18KBD2		1 2 3 4		連動		1 2 3 4 5 6 7 8	
m ³ /h	DIP-SW 設定	140	1 2 3 4	中間ダクトファン (出力)	DIP-SW 設定	無線連動	
100	1 2 3 4	160	1 2 3 4	レンジフード (入力)	1 2 3 4 5 6 7 8	1 2 3 4 5 6 7 8	
120	1 2 3 4	180	1 2 3 4	その他換気機器 (入力)	1 2 3 4 5 6 7 8	ON	
						ON	

■連動設定 (FY-25KBD2/FY-18KBD2共通)

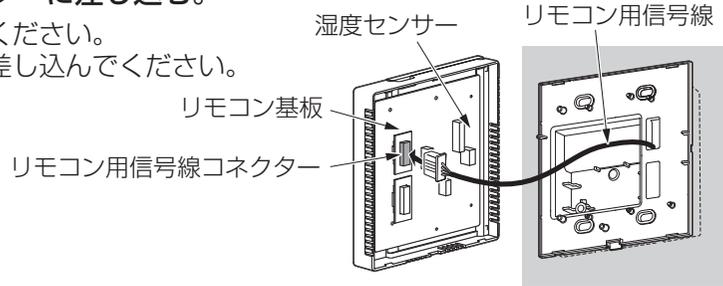
中間ダクトファン (出力)	1 2 3 4 5 6 7 8	SW3、5をOFF、SW4をON 有線で中間ダクトファンと接続時、連動運転します。
レンジフード (入力)	1 2 3 4 5 6 7 8	SW8をON 有線でレンジフードと接続時、連動運転します。
その他換気機器 (入力)	1 2 3 4 5 6 7 8	SW7をON 有線でその他換気機器と接続時、連動運転します。
無線連動*	1 2 3 4 5 6 7 8	SW6をON 無線でレンジフードまたは天井埋込形空気清浄機と連動運転します。

*無線連動は熱交換ユニットがAiSEG2に接続され、レンジフードまたは天井埋込形空気清浄機 (いずれか、または両方) がAiSEG2に接続されていることが必要です。

*ディップスイッチの風量設定を上記以外に切り替えると、本体およびリモコンは作動しません。

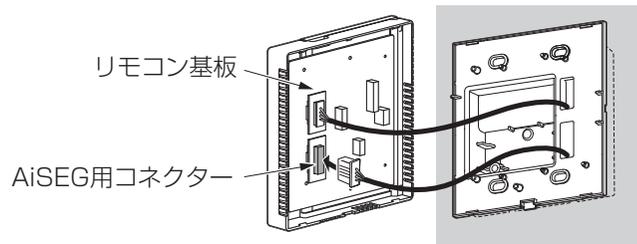
⑥ リモコン用信号線をコネクタに差し込む。

- リモコン基板に触れないでください。
- リモコン用信号線は確実に差し込んでください。

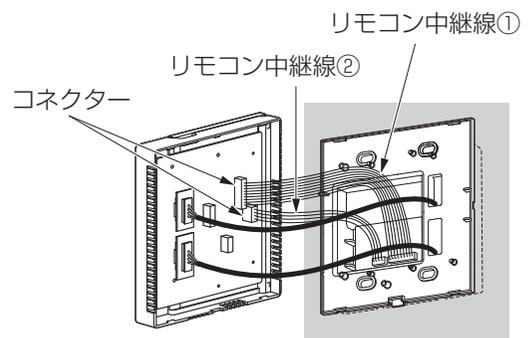


⑦ AiSEG用通信アダプタとの接続線をコネクタに差し込む。

- AiSEG2に接続しない場合は⑦は施工不要です。
- AiSEG用通信アダプタとの接続には、専用ケーブルが必要です。
接続方法は、AiSEG用通信アダプタ取扱説明書を参照してください。

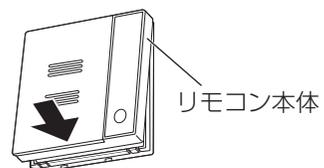


⑧ リモコン中継線①、②をコネクタに差し込む。



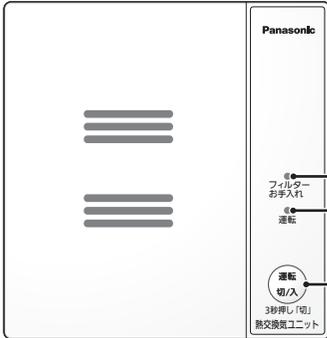
⑨ リモコン本体を取り付ける。

- リモコンコードを挟み込まないように注意してください。



試運転

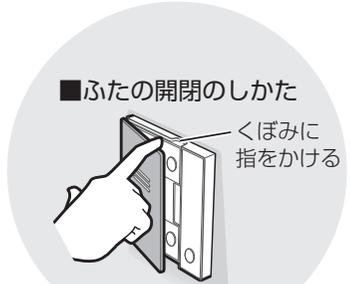
●この工事説明書に従って結線や取り付けに異常がないか確かめてから試運転をおこなってください。



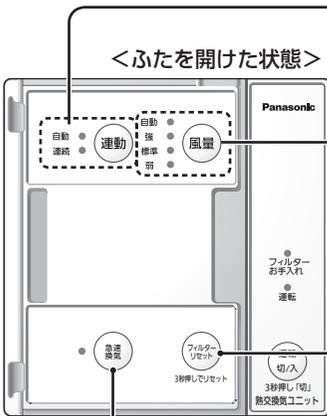
フィルターお手入れランプ
 ・フィルターのお手入れ時期がくると点滅します。

運転ランプ
 ・運転中に点灯します。

運転 切/入スイッチ
 ・換気運転を開始します。



■ふたの開閉のしかた
 くぼみに指をかける
 リモコンを操作しないときは、ふたを閉めてください。



＜ふたを開けた状態＞

連動スイッチ/ランプ
 ・連動運転の入/切と連動モードを切り換えます。
 ・「自動→連続→切（無点灯）」の順で切り換わります。
 ・自動…換気運転/連動運転を自動で切り換えます。
 ・連続…中間ダクトファン（別売品）と連動運転時、連続で自動運転します。
 ・連動運転中に点灯します。

風量スイッチ/ランプ
 ・24時間換気運転の自動運転/強/標準/弱ができます。
 ・運転中に点灯します。

	風量スイッチ
換気量を自動で切り換える	自動
換気量を多くする	強
24時間換気する	標準
換気量を少なくする	弱

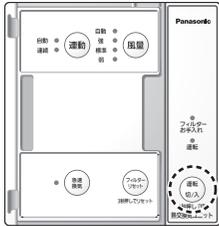
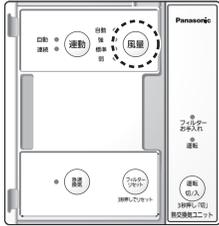
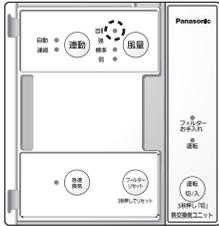
急速換気スイッチ/ランプ
 ・1時間、最大の換気量にて運転します。
 その後、元の風量にて運転します。
 ・運転中に点灯します。

フィルターリセットスイッチ
 ・フィルターのお手入れ積算時間がリセットされます。

連動機器との接続確認[※]

※機器連動しない場合は必要ありません。

※パナソニック製レンジフードおよび中間ダクトファンとの連動運転の確認をしています。
他社製レンジフードおよび中間ダクトファンとの連動運転はできません。

	リモコン (熱交換気ユニット) 付属品	連動機器 (レンジフード、 中間ダクトファン、 その他換気機器)	操作方法
①		全ての連動機器の 運転を停止	<p>運転を停止する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 熱交換気ユニット 3秒以上長押ししてください。  <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> 全ての連動機器運転を停止してください。
②			<p> を10秒以上押す。</p> <p>「標準」と「弱」ランプが点灯します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「標準」と「弱」ランプが点灯しない場合 熱交換気ユニットと電源用電線が正しく接続されていません。 電源用電線の接続を確認してください。
<h3>レンジフードとの連動確認</h3> <p>※レンジフードと連動しない場合は必要ありません。</p>			
③-1	 <p>レンジフード運転時 「自動」が点灯</p>	レンジフード 運転ON	<p>レンジフードの運転をおこなう。 (強、中、弱、常時のどれでも可) リモコン(熱交換気ユニット付属)の 「自動」ランプが点灯します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「自動」ランプが点灯しない場合 熱交換気ユニットと連動用電線、 またはレンジフードと連動用電線 が正しく接続されていますか？ リモコンの裏面カバーにある ディップスイッチが正しい設定に なっていますか？

連動機器との接続確認※ (続き) ※機器連動しない場合は必要ありません。

<p>③-2</p>	<p>その他換気機器との連動確認 ※その他換気機器と連動しない場合は必要ありません。</p>  <p>その他換気機器 運転時「強」が点灯</p>	<p>その他換気機器の 運転ON</p>	<p>その他換気機器の運転をおこなう。 リモコン(熱交換気ユニット付属)の「強」ランプが点灯します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「強」ランプが点灯しない場合熱交換気ユニットと連動用電線、またはその他換気機器と連動用電線が正しく接続されていますか？ リモコンの裏面カバーにあるディップスイッチが正しい設定になっていますか？
<p>③-3</p>	<p>中間ダクトファンとの連動確認 ※中間ダクトファンと連動しない場合は必要ありません。</p>  <p>リモコン(熱交換気ユニット付属)の「連続」点灯時、 中間ダクトファンの 運転ON</p>	<p>リモコン(熱交換気ユニット付属)の「連続」点灯時、 中間ダクトファンの 運転ON</p>	<p>レンジフードの運転をおこなう。</p> <p>連動 を押す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「連続」ランプが点灯します。中間ダクトファンの吹き出し口から風がでているか確認してください。 ・「連続」ランプが点灯しない場合リモコンの裏面カバーにあるディップスイッチが正しい設定になっていますか？ ・中間ダクトファンから風がでない場合熱交換気ユニットと連動用電線、または中間ダクトファンと連動用電線が正しく接続されていますか？
<p>④</p>		<p>全ての連動機器の 運転を停止</p>	<p>確認を終了する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱交換気ユニット <p>風量 を押してください。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての連動機器運転を停止してください。

パナソニック株式会社

パナソニック エコシステムズ株式会社

〒486-8522 愛知県春日井市鷹来町字下仲田4017番 TEL(0568)81-1511

© Panasonic Ecology Systems Co., Ltd. 2022